



三木の祭り屋台紹介リレー

その5

市では、市制施行70周年記念事業として、10月26日に「三木の祭り屋台大集合」を開催します。ここでは、地域に代々伝わるお祭りで奉納されている「祭り屋台」の魅力と文化を守り育てる皆さんを紹介します。

問 (市)企画政策課 企画政策係

本号紹介の秋祭りスケジュール

岩壺神社(岩宮)

10月19日(土)(宵宮)
午後5時30分頃～
宮入
午後7時55分頃～
宮出
10月20日(日)(本宮)
午前10時25分頃～
宮入
午後3時10分頃～
宮出

東條町 (岩壺神社)

青年団の赤法被がトレードマーク。昭和62年に青年団の法被を新調し、町の法被と色を分けました。今ではよく見られる青年団の別色法被も、東條町が先駆者です。宮出後の町内巡行では、青年団OBも赤法被に衣装替え。粋でイナセ、威勢の良さが見どころです。



【屋台年番町代表コメント】

岩壺神社は、674年創建と伝えられる由緒ある神社で、江戸後期頃から屋台奉納が始まったと伝えられています。毎年10月の第3土・日曜に秋祭りが執り行われ、6台の屋台が繰り出すほか、浦安の舞、こども相撲を奉納。

近年は日曜の本宮において、若宮八幡宮から宿原屋台も宮入に参加。境内での7台総練りは壮観です。

東條町公民会
区長 中塚 広憲 さん



屋台各部の名称

布団屋根

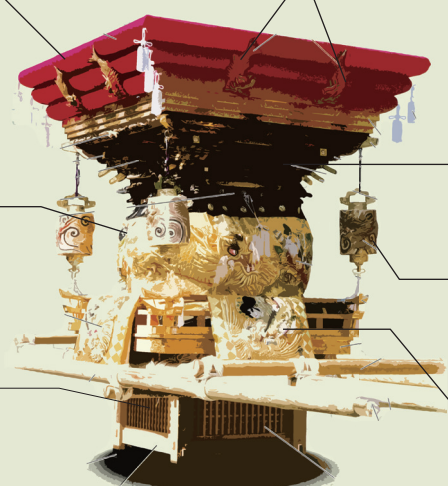
赤い布団の3段、反り屋根などの屋根がある

水引幕

四本柱の周りに巻く細長い幕

長胴太鼓

通称「鳴り太鼓」。乗り子が叩く合図で屋台が動く



布団締め

布団屋根の四方に取り付けられた装飾。反り屋根屋台の場合は梵天となる

狭間彫刻

屋台の四方を飾る彫刻

屋提灯

絵柄や文字の刺繍の入った飾り提灯

高欄掛

豪華に装飾された四角の刺繍飾り

岩宮 (岩壺神社)

岩宮屋台のシンボルはなんといっても「阿吽の鯨」。デザインは以前のものと同じですが、5年前に新調し、ひと回り大きくなったため迫力が増して屋台を引き立てます。狭間彫刻は経年劣化などによる損傷がありましたが、今年度修理し、元の面影を取り戻しました。岩宮町民一丸となって豪華絢爛な屋台を力強く担ぎ上げます。



岩宮子ども屋台
岩宮
区長 岩谷 幸和 さん

大手町 (岩壺神社)

自慢は、市内屈指の2尺6寸の大鳴り太鼓。象徴は屋根に輝く扇の留め金具。特徴は、平屋根特有の雲板と反り屋根特有の垂木を合わせ持つこと。

大手町屋台の歴史は古く、昭和31年に購入し、平成28年に螺鈿細工の高欄の復元などを施しました。名彫刻師 鎌田秀一作の狭間彫刻など、匠の技を今も大切に受け継いでいます。



大手町
区長 佐伯 悟 さん

大塚 (岩壺神社)

「明るく、楽しく、元気よく、笑顔でさわやかに」のもとに勇壮かつ可憐に担ぎ上げます。大塚町は、商売繁盛を祈願して毎年1月第2土・日曜に三木戎まつりを開催している戎神社のお膝元であり、屋台の水引幕にも戎神社に鎮座するえべっさんをはじめとした「七福神宝船」の図柄が描かれていますので、見た方に幸福が訪れることでしょう。

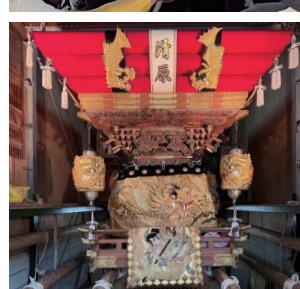


大塚
区長 森本 和明 さん

滑原 (岩壺神社)

滑原町屋台は文化14(1817)年と文政3年(1820)年に荷ひ(い)太鼓奉納を行ったとして三木市有宝蔵文書に記されており、荷ひ(い)太鼓という表現では市内最古です。現屋台は、平成10年に購入、大改修を行ったもので、屋根の薄い、古い姿を伝えています。

鳴り太鼓は2尺7寸の大きなものが自慢です。



滑原
区長 横山 隆史 さん

芝町 (岩壺神社)

昭和21年、魚住徳松さんから新しい屋台の寄贈を受け、岩壺神社例大祭への奉納運行が始まりました。「芝町の小さい太鼓」とからかわれても、

少年たちにとって屋台は宝物でした。平成6年、彼らの夢はついに新しい屋台獲得へとつながりました。市制施行70周年は芝町の新屋台30周年の年でもあります。



新調前の芝町屋台
芝町
区長 金鹿 功 さん

